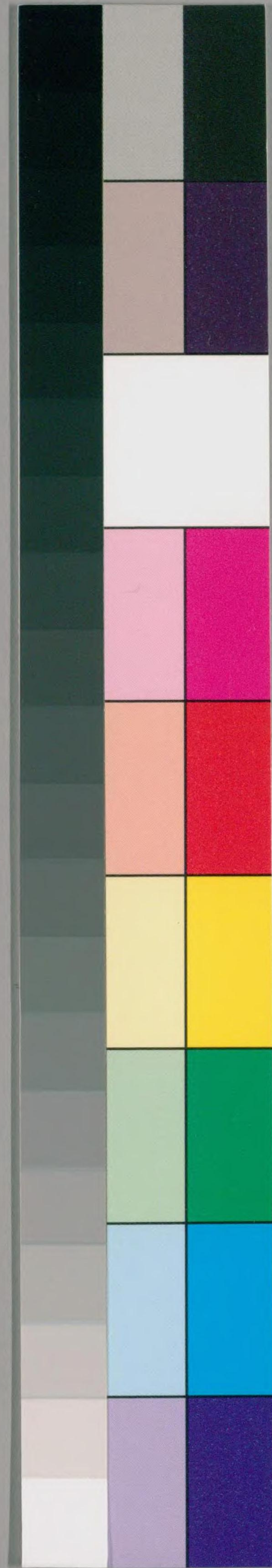


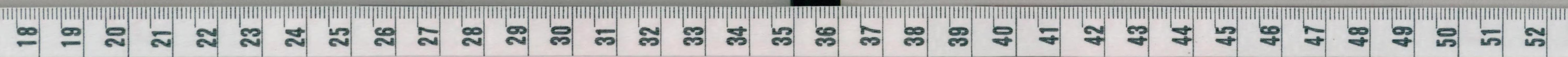
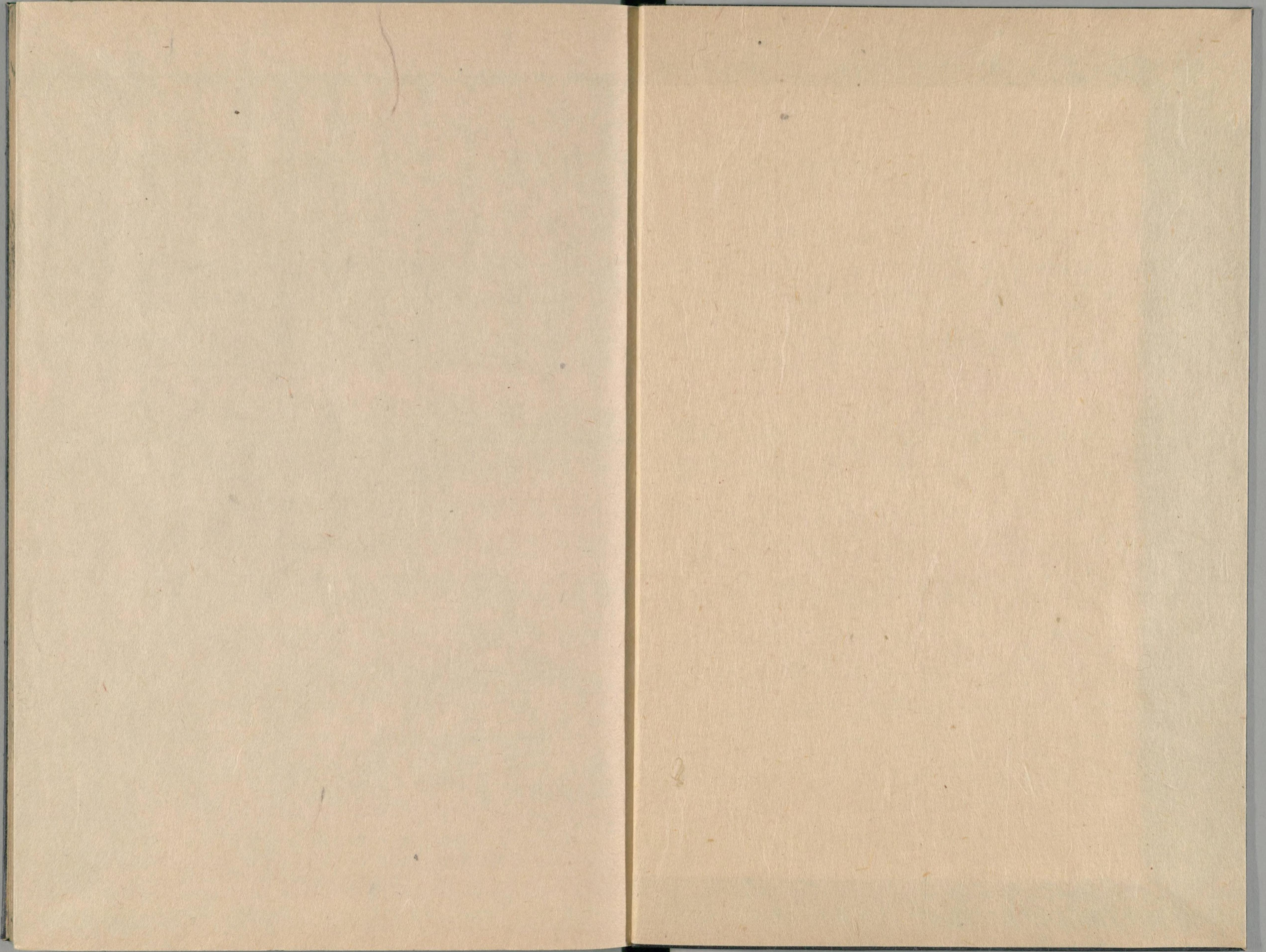
京
7
50

別13
58
7止



国立国会図書館 タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル 『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用

人倫七
 ともひつりてはあつたけし
 わまひつりてはあつたけし
 ねふふつりてはあつたけし
 らぬ女子あやむいふ
 けうふつりてはあつたけし
 の物つりてはあつたけし
 とや **揚屋** 女房
 中よりあつたけし
 あつたけし
 されし
 物城
 人倫七



はすていらくいあつるるど
しあられむびく

非節 相伝後志男子を
持女局の女をめぐりて

くくくくくくくくくくくく
とらららららららららららら

よかれいりりりりりりりり
つらりりりりりりりりりりり

よくよくとととととととととと
うううううううううううう

とととととととととととととと
はらららららららららららら

あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ

とととととととととととととと
あはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ

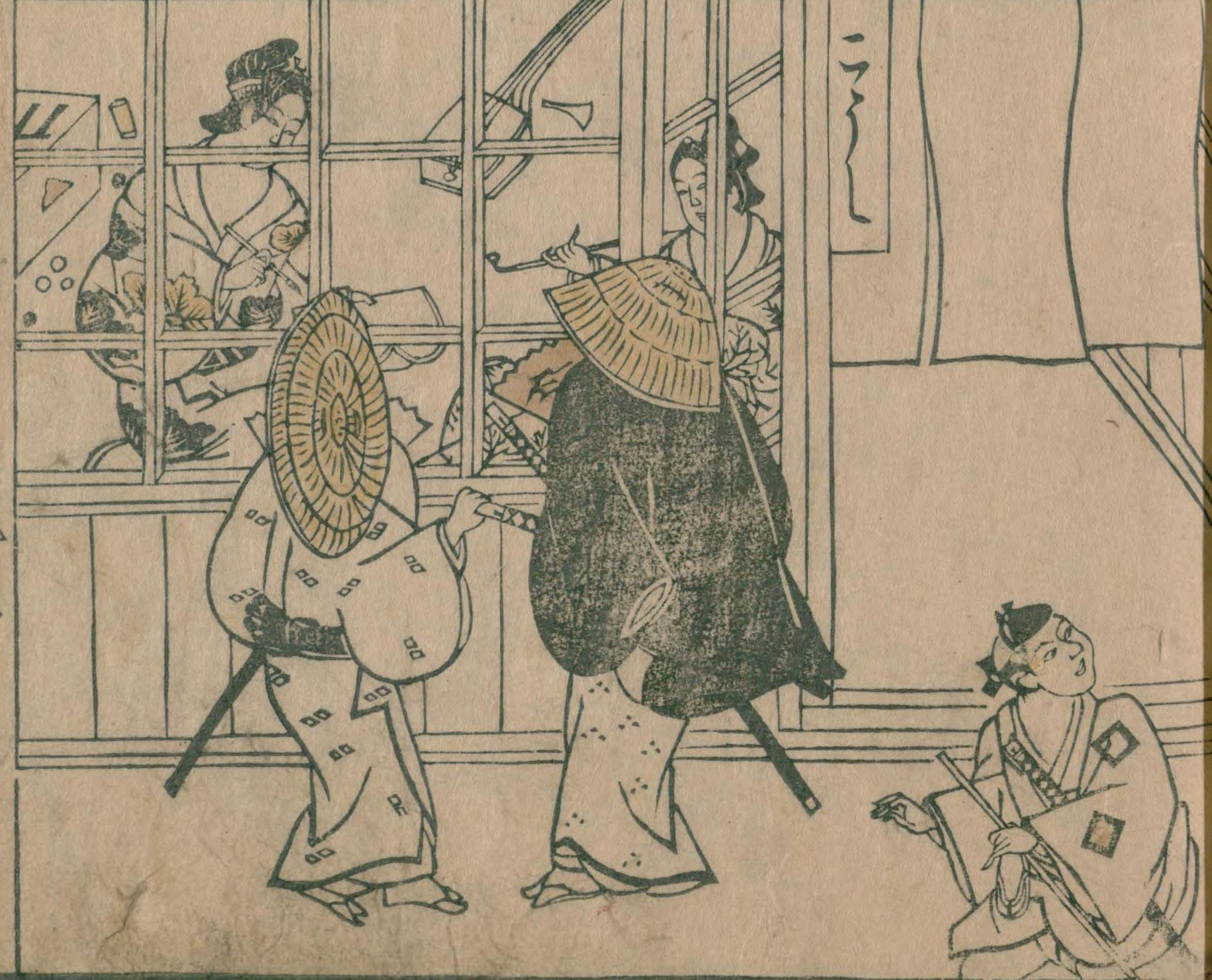
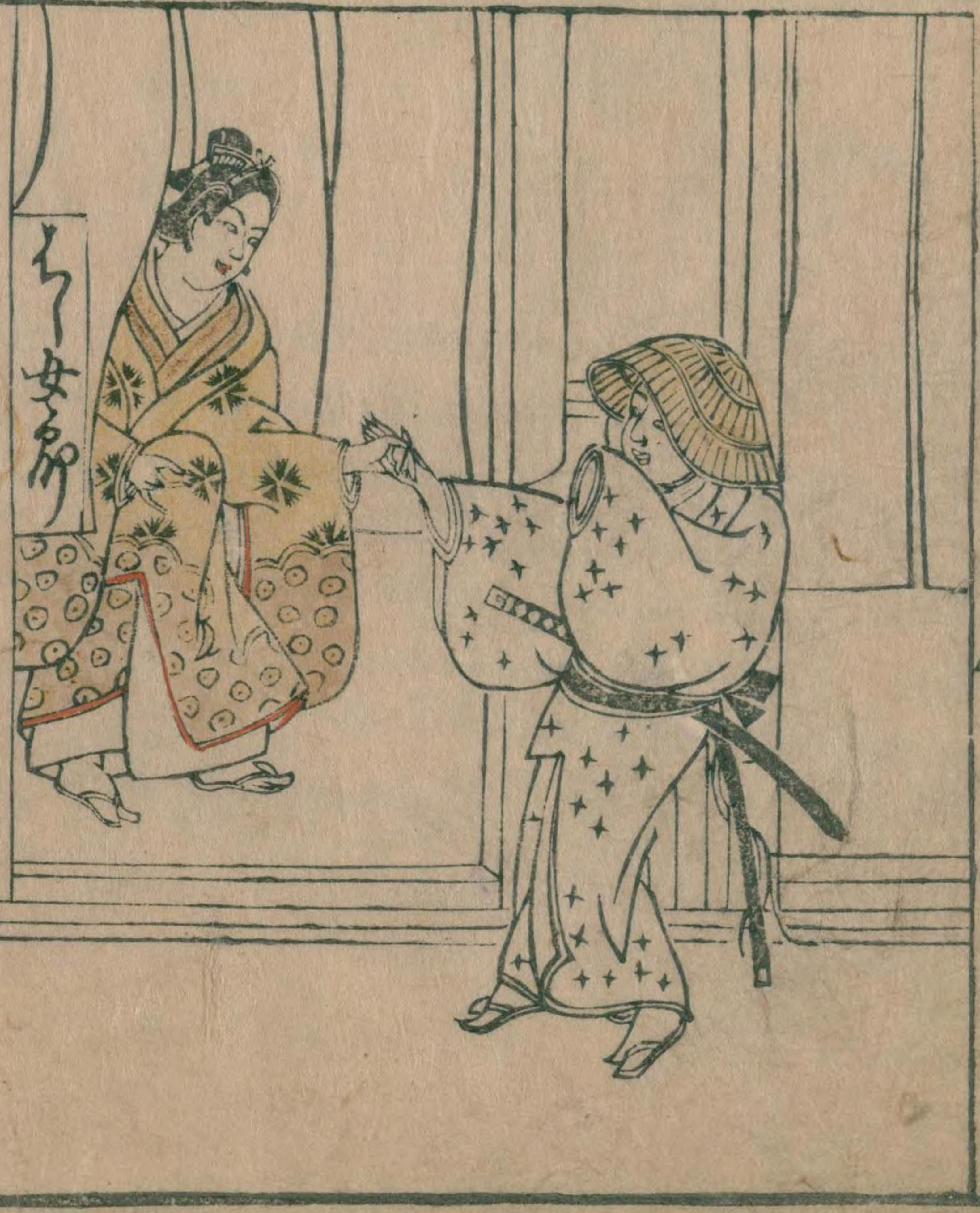
あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ

あはれはれはれはれはれはれはれ
あはれはれはれはれはれはれはれ



ちやんらんきつてみくら
らふよてしつてしつてしつ
ちあり

本が番 了あたるくあ

くして物とらぬあつち

あも小まき布のあきぬ

はさぬくの口となく

物言筈 女かこの中にて

きりきりしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

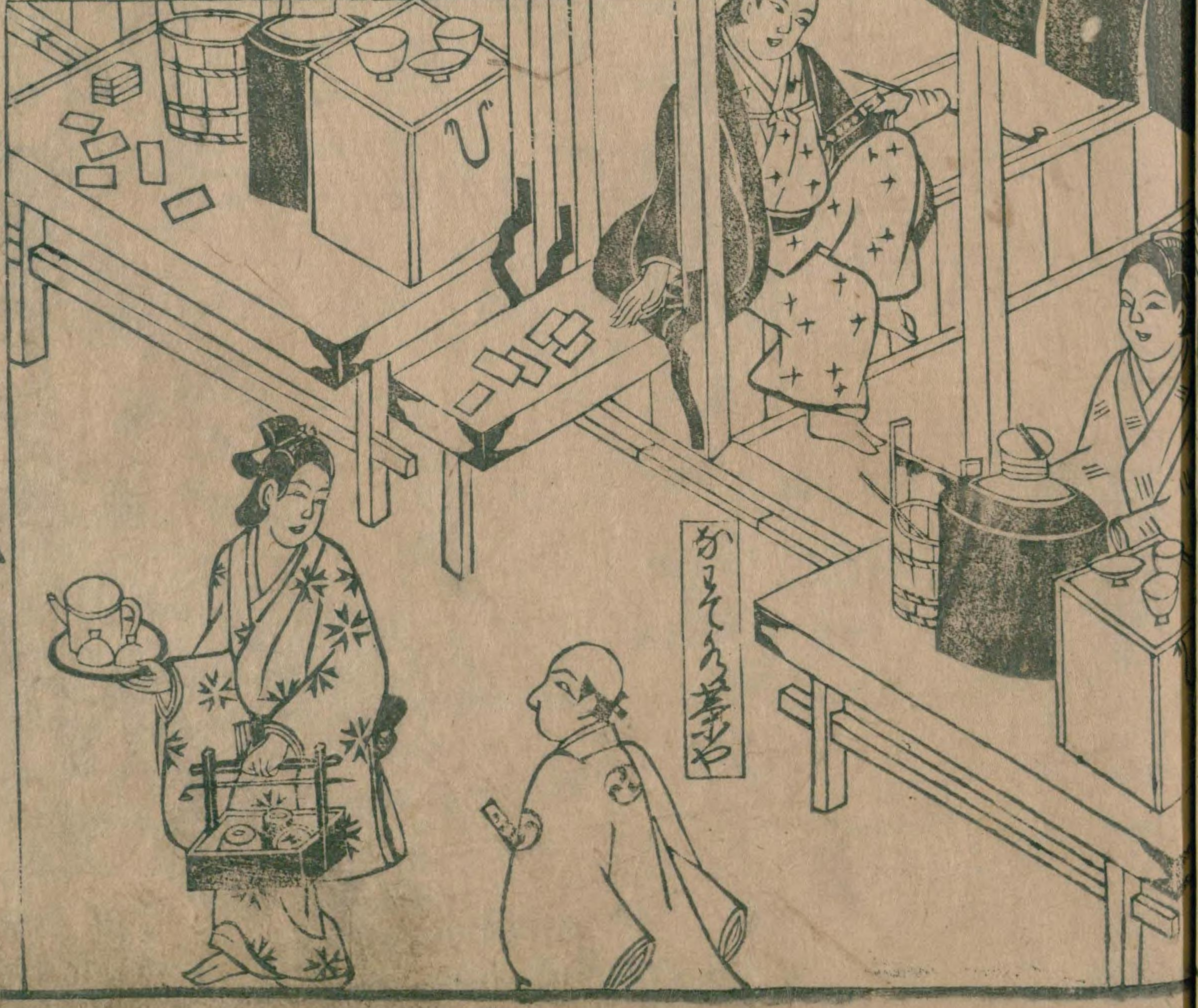
とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち

らふよてしつてしつてしつ

とらぬあつちのあつち



人倫七

△六

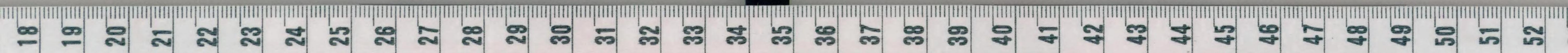
男女よよあて佛法と
 従ふを又の常迅速
 のこそららのととせら
 ぬのまよとと母とらと
 め成おしととせよと
 ては施とらととと知と
 とらよあなり物と施と
 りのたのよ功徳とえ倍
 倍施とあとの倍とあ
 せとて氣生ふ功徳の倍
 とと人よとらとと人
 と徳因とらとと人
 りよ時の御とらとと



我とて一様とらと人
 ととあたらとと倍とらと
 く倍ととらととと全
 けとととととととと
 唱つ師とらととと
 傳説とらとととと
 とととととととととと
 がたのゆは母の圓とと
 らら又欲のよとととと
 後とととととととと
 づらとととととととと
 たりとととととととと
 室精金とらとととと

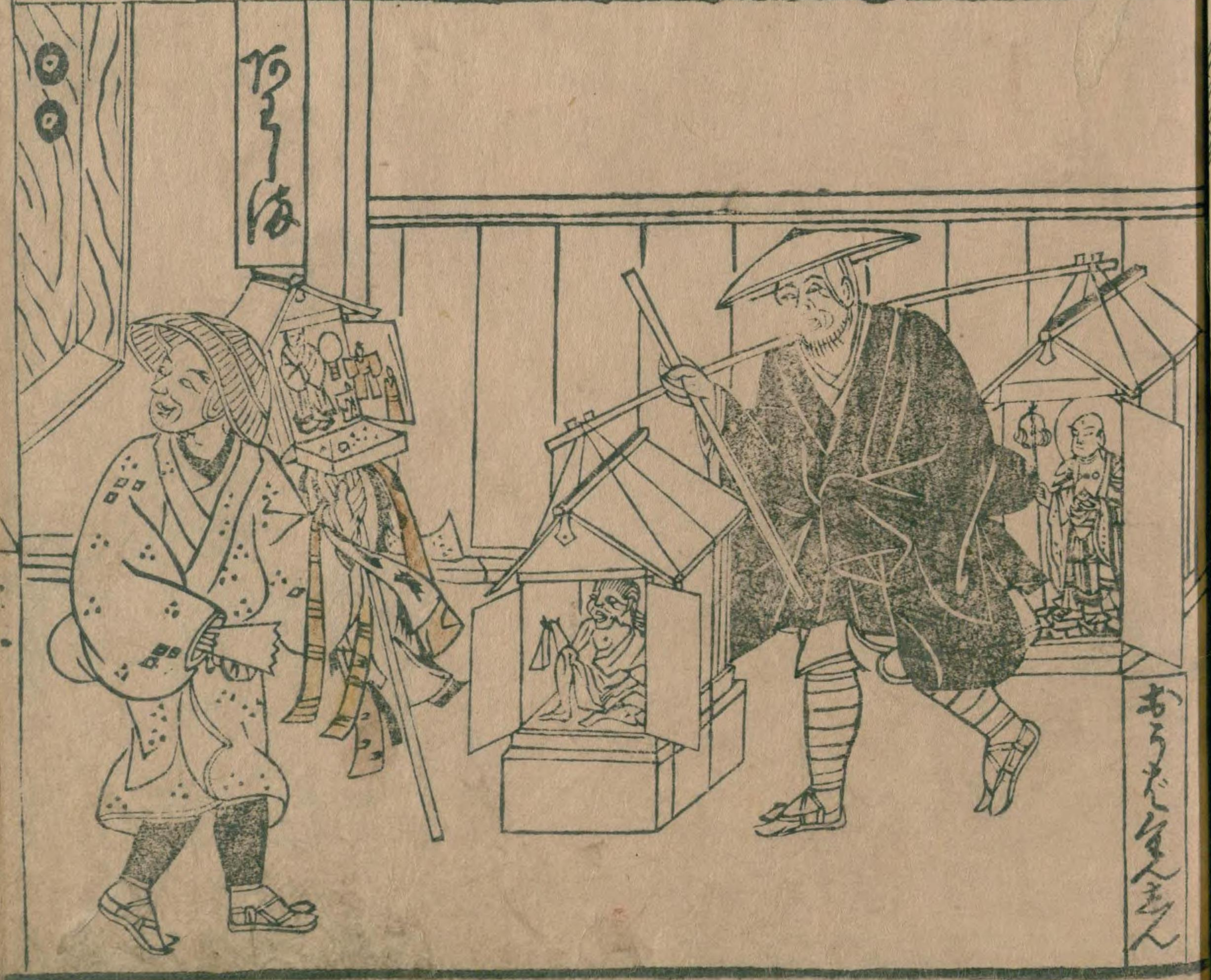


人倫七



法住彼云蓬川系に
 一と奉むふ新男女の一
 家とてさうりあは
 るとせしむりけし人よ
 してつらげむ新を
 してつらげむ新を
 してつらげむ新を

法住師の法住師の
 なりけりともいふ人
 こゝろあれあつて人
 らせ食ひてむらみだ
 てるれどもむらみだ
 てはるらむらみだ
 けりともいふ人
 けりともいふ人
 けりともいふ人
 けりともいふ人



りあつては女僧の儀作
らつては女僧の儀作

栗眞飯 ぐら口上一つ

十倍蓰の儀作

れとらつては女僧の儀作

女の身よつては女僧の儀作

毒れ物とすまふのあつて

りんとあつては女僧の儀作

をさつては女僧の儀作

ゆゑに女僧の儀作

因みありては女僧の儀作

みして女僧の儀作

然とらつては女僧の儀作

りんとあつては女僧の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

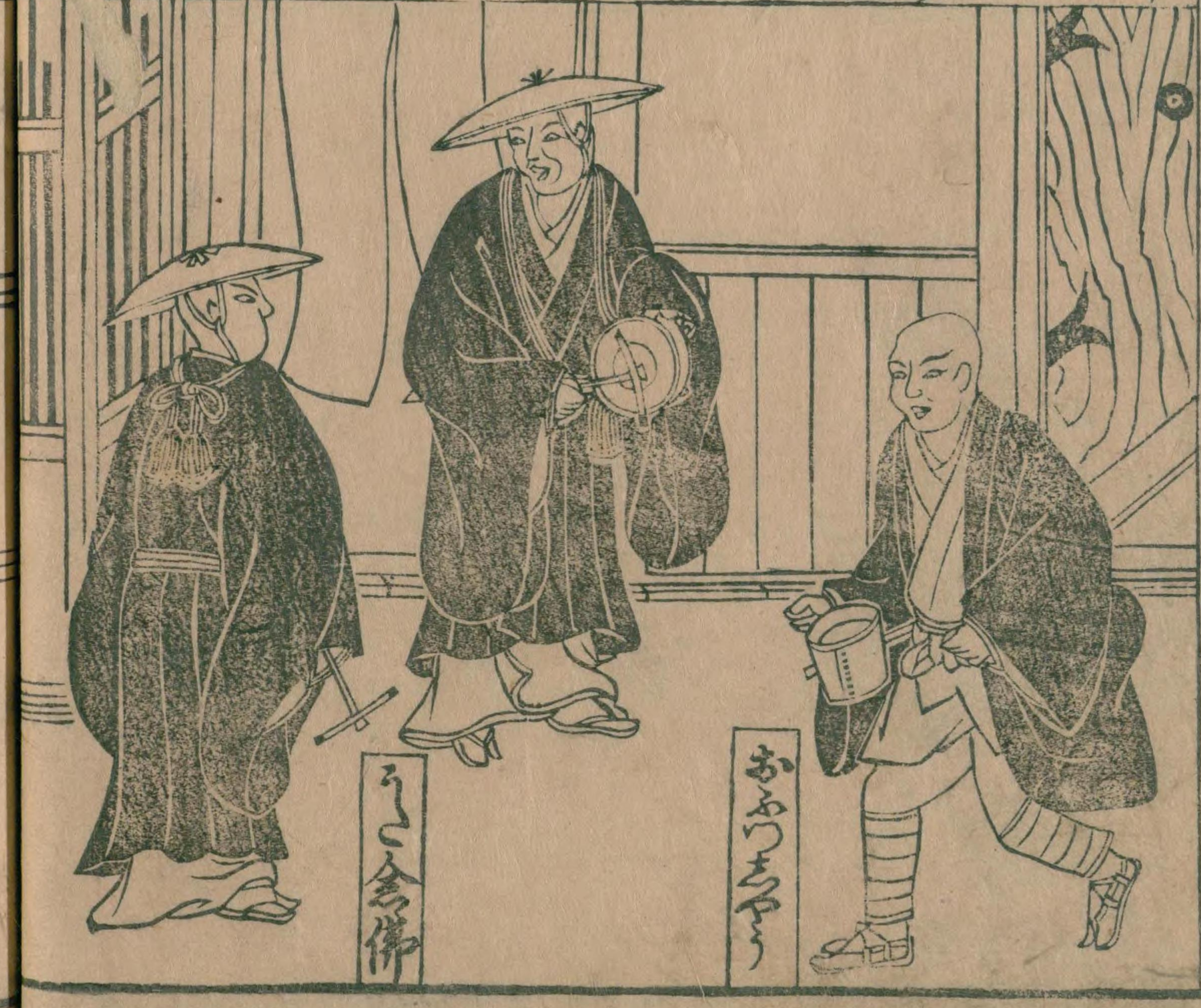
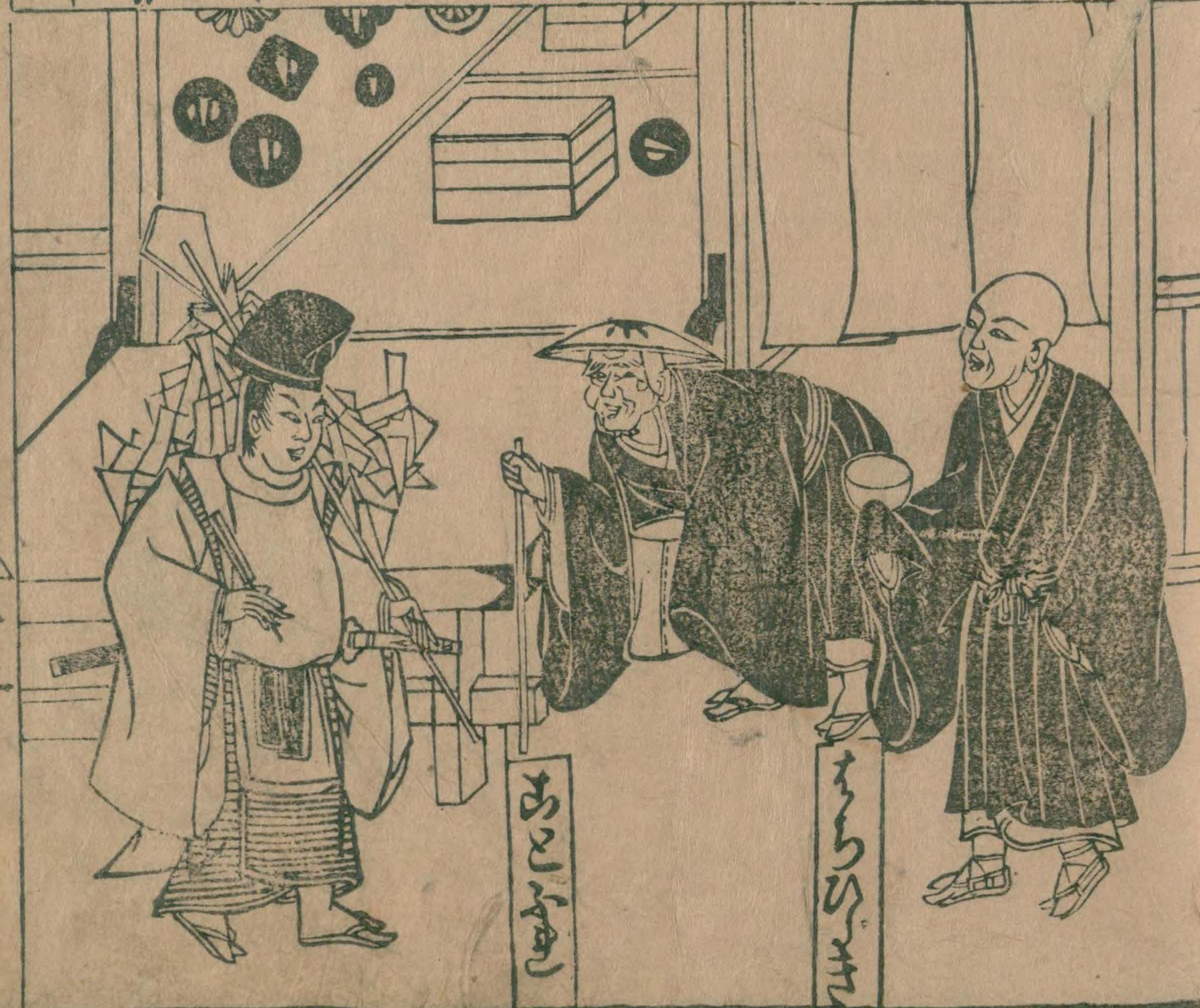
信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

信狗形 女の儀作

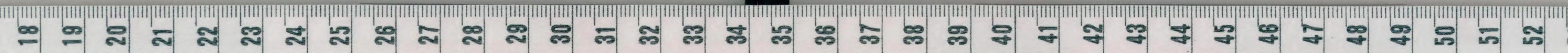
信狗形 女の儀作



人倫七

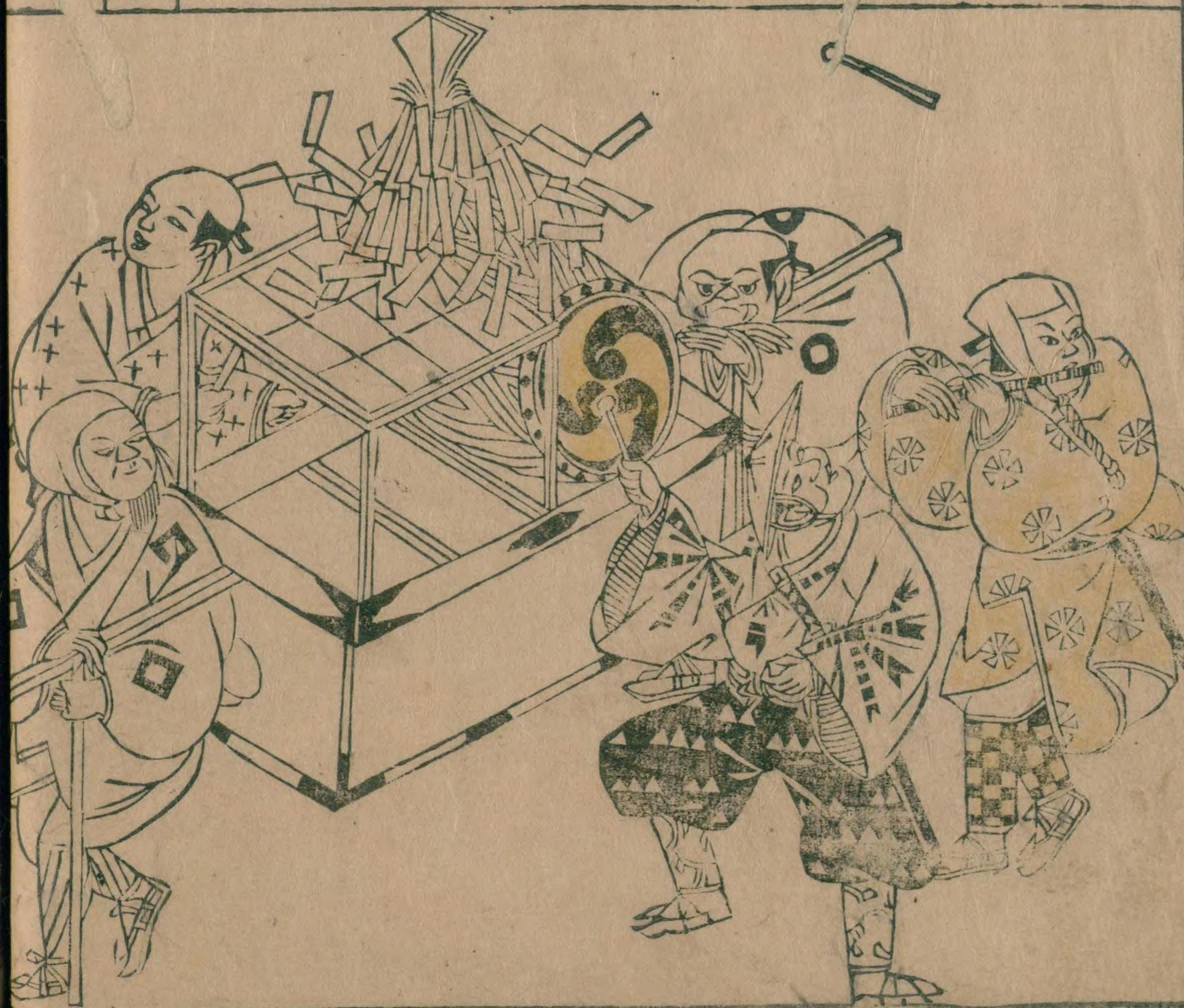
及外一掃其室... 女に於て 月入つて... らひありく... 女に於て... 事簡 毎子... 麻の糸... 事何の糸... あひて... 女に於て... 事簡 毎子... 麻の糸... 事何の糸... あひて... 女に於て...

丹波の國... 女に於て... 事簡 毎子... 麻の糸... 事何の糸... あひて... 女に於て... 事簡 毎子... 麻の糸... 事何の糸... あひて... 女に於て...



振て一荷のうぬとどか
 けつろ男後とあまら
 名敷の御子とあまら
 一門あまら **新巻** 巻七
 ちまをゆめならひあり上
 ちまをゆめゆやく一ん不礼
 踊けつろとらあまら
 只一とらに廻り
 よろははあまらあまら
 男一とらに廻り
 物よほらあまらあまら
 母つろあり **念佛申**
 敵陣とらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら
 のひらるれ松尾の林
 うつろとあまらあまら
 あまらあまらあまら
 勢とあまらあまらあまら
 うつろあまらあまらあまら
 あまらあまらあまらあまら
 くまあまらあまらあまら
 たまあまらあまらあまら
 せよあまらあまらあまら
 たまあまらあまらあまら
 とあまらあまらあまらあまら
 のまあまらあまらあまら



代林末

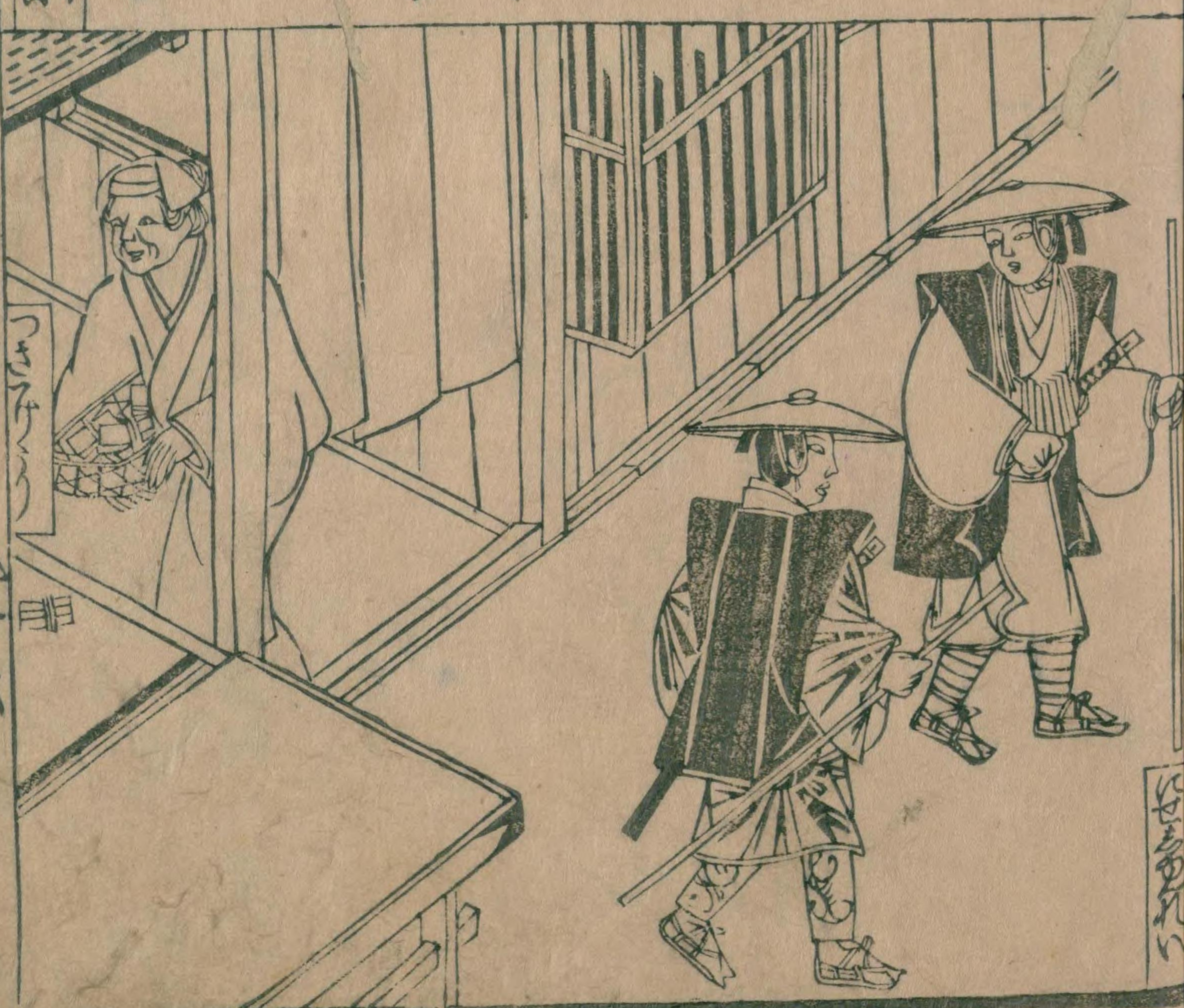


田舎の文盲の如きものや
 めては信じてゐるものも
 えいびりまで教養と通
 向文の習字をせよの如く
 べしと
 鐘鼓 けえん
 ひうきや上人の所代り
 撰師より上人の所代りに
 別あり麻ありのに或時
 うきたえてまむと人々まよ
 おひあひて撰師よといふを
 も麻の教養とて人々に
 ようて教養の如きといふ
 さるべの流法と流多む撰

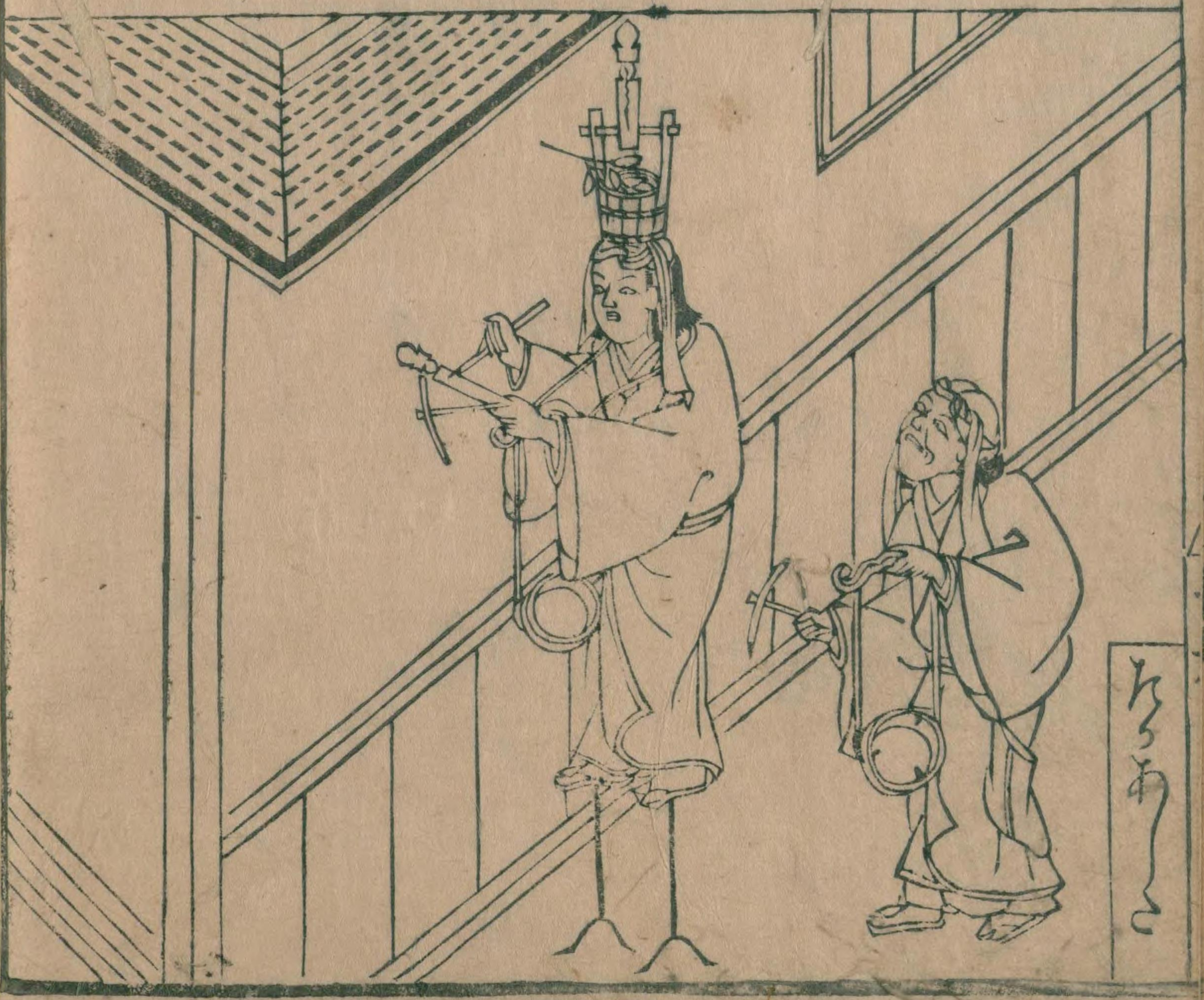
あまひ



師の一言を奈説して善
 擧よつてまづは物を後母
 の化業外よあらまゝの如
 して業は心よりあつて教
 へり又業のありまゝと
 一巻のすふつりてあつて
 あつてまゝにありて教へ
 業とたゞまゝに業を成すと
 内二巻に彼岸をわたりて
 月正のまゝにまゝにまゝに
 中とていひわたりてまゝに
 名のとてまゝにまゝにまゝに
 かまらぬまゝに



怪力まの者さういふも怪
 物もかざらひけしむる
 にもさかみしりては
 りは林とてさちの舞
 ぶし女が終よあをせて
 陽の調子林のちの
 節子神のさうや
 とく物名の代林ふの
 のし女とてくは
 ちやうとらさたて
 節子のつらと人の中
 らるはさういふ
 節子のつらと人の中



のさつといふ一
 女さういふ
 林とてさちの舞
 ぶし女が終よあをせて
 陽の調子林のちの
 節子神のさうや
 とく物名の代林ふの
 のし女とてくは
 ちやうとらさたて
 節子のつらと人の中
 らるはさういふ
 節子のつらと人の中



一とくぬくはれぬとにけり
 て蘇すいかきまかりながら今いまの世
 お授おま入いりの彩いろは佳よくはなすの国くに
 小こ作しやうころろとちりてふた
 ころり **家いへの丘かみ尾お** かしの山
 津つの立た流りめては蘇すい井いと作しやう
 て法はう方ほうに知ちをきくけつぐ
 りつろ家いへとつわくしし園いを
 みつろははちとつらつら
 て小こ方ほうと保たもつはつらつら
 己おのれ功こう齡れい歴れきつらつとては察さつ
 馬うま一ひとまよふ伏ふしと持も女にを
 風かぜ子こあつてつらつらつら



つらつら郡ぐんよもむね建た二
 ち何なに業わざ師しの家いへ子こはつらつら
 是こゝ末すえ世よに候まうなり
似に似に禮れい よせあんなまら
 うらふふふふふふふふふふ
 解とるふんまらうらうらうら
 鏡かがみをかみまらあつたか
 うめせまゆんまらうらうら
 まらうら目めとわわらうら
 やをらうらうらうらうら
 ひありのうらうらうらうら
 母ははうらうらうらうらうら
 うらのせまらうらうら

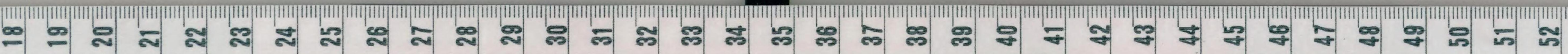


18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

一ツでこれをもま後改上はな
 桶と頂水と入着よかかひ
 とあけてまうまうけしる節
 ようひてはそとなく種
 れのま一風うらりぬき
 んひとくあよる鏡とや
 れも厚板小改とく桶
 の水と格の枝とくく筒
 とつひまよらひがまもう
 みのあつちまうらりよか
 れでもあつちの鏡やち
 らまぬる但あんぞんけ
 ますもわりやぬめとけい



かぐらえん 与三郎
 船と悲用とつふたはじ
 う後代のは時世に後か
 くもな名守のお母とやうか
 ひとをばあふおとらえん今
 けらうが後家とあて
 飛人を合れおと二季
 のは岩あくま糸のほハ
 ちとつらひてはくやあ
 らまひらひあつちら
 けいよとつたのまうとえ
 ねりな年記ふみてのお



とあいのみ抄にんぐりの
 夷録 けい国あまのり
 るゆへ夷録しと号に
 西のあまのりひし海とさ
 て法徳あまのりけい
 ひりあまのりれ網とあ
 ひりあまのりけい
 始よ出るるるるるる
 るまの踊のまのり
 るまの浮沈あまのり
 風わりてかくまのり
 徳銀子とあまのり
 文徳 かまのり



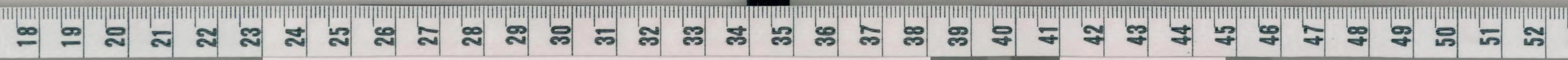
はつとつはつれ行てあ
 とあわけあまのり
 りあまのりあまのり
 捨のあまのりあまのり
 よあまのりあまのり
 あまのりあまのり
 あまのりあまのり
 穢とあまのり
 小弓の経書
 あまのりあまのり
 あまのりあまのり
 あまのりあまのり



いふらふいふものさしは
 さいさいさい小うら編木
 摺りつとて下品の一属え
 教下 教下の字訓の意
 ちまらでてとて得家にと
 わり鉄筋と打接つと下
 とうとうあまんと縦の鼻
 上りまあてと枕とさ
 自はまらいつらいつと錆
 とうらうひささきと後
 どのてさかまのさかまの
 ちんちんとおとりと物
 りのあつちんちんちんちん



ついでに教下あり
 住吉 住吉のりりりり
 あつ下品のさかまのさかまの
 うさ消のりりりりりりり
 かつ下品のさかまのさかまの
 うさ消のりりりりりりり
 糸とたてとさかまのさかまの
 わり住吉のりりりりりりり
 ていりりりりりりりりりり
 しんちんちんちんちんちんちん
 猿 一人相まらりりりりり
 公清 公清優人といふ



宋
7
50

柘原家藏

元祿三^庚午載

七月吉且

書林

平樂寺

板 閑

大坂高麗橋一丁目

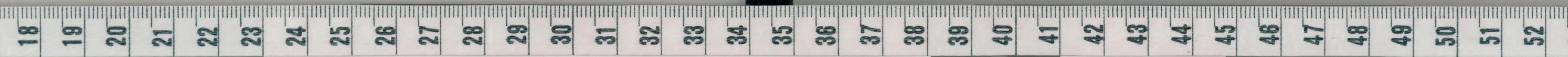
村上清三郎

江戸日本橋南平松町

村上五郎兵衛

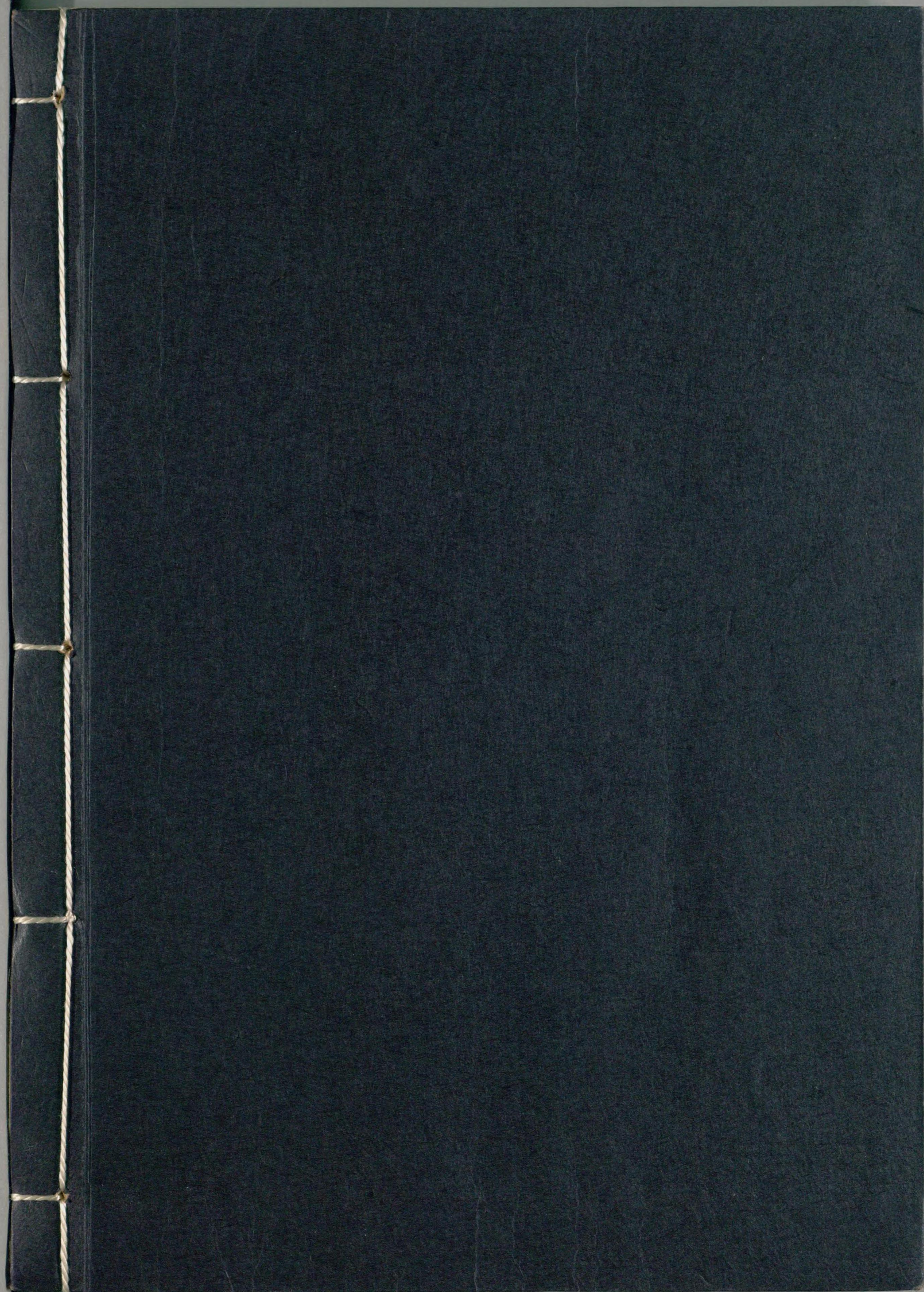
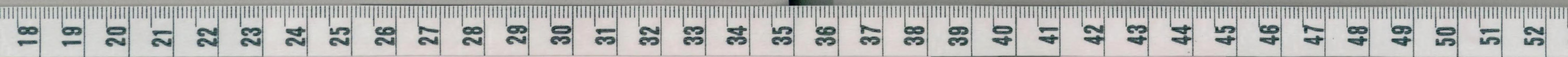


別 13
58
7止



国立国会図書館 タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『[人倫訓蒙図彙] 7巻』 請求記号 寄別13-58

ガラス使用